



コード（分野）	8502（8.福祉・人権・国際理解）
メニュー名	世界と自分とのつながりについて知ろう
校名(学年)	草津市立笠縫東小学校 第6学年
講師・支援者等	滋賀県国際協会
学 習 名	世界がもし100人の村だったら
教 科 等	総合的な学習の時間
実 施 日	令和5年 5月22日（月）8:45～12:10 2コマ×2回

《授業の流れ》

テーマ「世界と自分とのつながりについて知ろう」
 ○ワークショップ版・世界がもし100人の村だったら
 「世界がもし59人の村だったら」
 ～役割カードの人物になりきって活動する～

1 「男女」に分かれる。

現状は 48：52

[男性の方が少ない理由として考えられる要因]

- 生物の特性として、産まれる数は男が多いが、10歳までの死亡率は男の方が高い。結果、女性の方が寿命が長い。戦争や事件・事故などで男性の方が亡くなる数が多い。

2 「年齢層」に分かれる。

本日：子（14歳以下）17/59人、大人34/59人、高齢者（65歳以上）4/59人

世界：子28/100人、大人64/100人、高齢者8/100人

日本：子12/100人、大人62/100人、高齢者26/100人…日本は少子高齢化

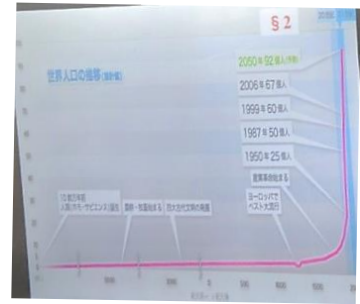


赤：子どもが人口の50%以上の国（途上国の特徴）
 青：子どもが人口の25%未満の国（先進国の特徴）
 →現在、人類史上、地球上では最も子どもが多い時代

3 「人口」の推移について知る。

2000年前まで2億人程度→1950年（本が出版される約50年前）25億人

2001年（100人村の本が出版された年）65億人
→今現在（80億人超え）→2050年頃（95億人超え）
＜グラフに表すと＞
1500年位から異常な人口増加（産業革命が始まったころから人口爆発が起きた）



4 「言語」で同胞探しをする。

- ・ 役割カードに書かれた自分の国の挨拶を交わして、グループを形成。
- ・ 言語≒文化 世界には多様な文化が共生する時代 多様な方がよい。
- ・ 世界6大言語（中国語 17%、英語 9%、南アジア 8%、スペイン語・ロシア語 6%、アラビア語 4%）で、ほぼ半分を占める。
→残り半分は少数言語。世界には2000言語以上あると言われている。
（日本語のなかにもアイヌ語や琉球語など14言語くらいある）

5 「変わりゆく同胞」について知る。

- ・ テレビやインターネットの普及によって英語の活用が増え、これに伴い今世紀末には数百の言語が消滅すると言われている。
- ・ 共通の言語を介せることでコミュニケーションが容易になるが、同時に文化の消滅に繋がる。

6 「お金」の分配について体感する。

- ・ 富の分配（本が出版された2001年）
世界：100人中6人の高所得層が59%の富を持っている
100人中74人の中所得層が39%の富を持っている
100人中20人の低所得層が2%の富を持っている
- ・ 富の再分配（本の発行から約20年経った今の姿は）
世界：100人中10人の高所得層が82%の富を持っている
100人中50人の中所得層が16%の富を持っている
100人中40人の低所得層が2%の富を持っている

…現在は、SDGsの取組などのおかげもあり、目標「SDGs 1 貧困をなくそう」は成果が出ている（貧困層は少なくなってきた）が、「SDGs 10 人や国の不平等をなくそう」は状況が悪くなっている（貧富の格差はますます大きくなっている）。

→途上国からも富豪が、先進国からも貧困者が発生。国や地域で経済格差を比べることは難しい時代となっている。

*カクテルグラスの世界と言われる。



<感想等>

児童

- ・今、それぞれの国で、いろいろな問題を抱えていることが分かった。
- ・今回は、世界のことを学ぶことができ良かった。
- ・自分たちは、様々な問題を根本的に解決するために、どのような取り組みをしたら良いのかなど、しっかり考えなくてはならないと思った。
- ・知らなかったことがいっぱい分かり、世界の問題とも向き合って、SDGs のことも考えて生活していきたい。
- ・自分たちが向きあっていかなければいけない課題が見えた。



学校

- ・「世界がもし100人の村だったら」のゲームを通して世界の現状を知るとともに、多様性や異なる価値観について学び、SDGs について認識を深めてほしい。
- ・子どもたちの「ええー!」「知らなかった!」という声がたくさん聞こえ、知っているようで知らないたくさんの「気づき」が生まれたと感ずることができた。そして、他人事ではなく、自分事として捉える良い機会になった。
- ・子どもたちが、最後まで集中して取り組めるよう、いろいろな工夫や準備をしてくださったことに感謝です。



支援者・講師

- ・子どもたちの反応がとてもよく、教える側も自然と熱量が高まった。
- ・参加体験型で動きだけにとどまらず、もっと考える時間・話し合う時間が取れたらよかった。この子たちならしっかり向きあい考え、話し合えただろう。(もう少し時間が必要)
- ・振り返ることで、学びから次の行動(自分にできること)へ向かうきっかけがつかめる。指導者として、その機会を確保に努めたかった。

